

呪師走の儀

(春日大社舞殿)

5月15日 11時始

ここで奉納される「翁」は、浄衣姿の三人の翁と、素襖姿の三番三と千歳とで勤める古いかたちを留め、また「十二月往来」は、現行観世流のものより一段と古雅な詞章を伝え、宝数えのためたい章句がつくのが特徴です。



新御能

たきぎ

お

のう

御社上の儀

(春日大社若宮拝舎)

5月16日 11時始

「社頭法楽」の最も古いかたちとも言える御社上の儀は、神殿を背にして、「四方正面」の型で行なわれ、また橋掛かりは通常の反対で右側となり、非常に珍しい舞台となります。



南大門の儀 (興福寺南大門跡「般若之芝」)

5月15・16日 17時30分始

近年、各地で野外能や薪能が行われていますが、古来、薪能といえば、興福寺南大門前の芝生で演じられてきたものを指し、各地の薪能は戦後これに慣らったものです。

869年、興福寺修二会で薪猿楽が舞われたと伝えられており、能楽が大成される室町時代には、最も盛況を極めたといわれています。

15日は春日大社舞殿で「呪師走(しゅしはしり)の儀」(11時から)、16日は春日大社若宮で「御社上(みやしろあがり)の儀」(11時から)がそれぞれ奉納された後、両日とも17時30分から興福寺南大門跡「般若之芝」で「南大門の儀」が執り行われます。

観世(かんぜ)・金春(こんしゅん)・宝生(ほうしゅ)・金剛(こんごう)の能楽四座による能と大藏流による狂言が演じられます。また、興福寺衆徒(僧兵)の手によって篝火に火が入られ、観る人々を幽玄の世界へと誘います。



舞台あらため・外僉議

当初、薪能では、舞台が野外の芝生であったため、紙を敷き踏んで芝の状態をみたとされています。現在ではその必要はありませんが、芝の湿り具合で能の有無を決めていた事を今に伝えるため演能の前に興福寺衆徒(僧兵)により「舞台あらため」が行われ、人々にその結果を伝える外僉議文(げのせんぎぶん)が読み上げられます。これらの儀式は見ることができない新御能だけの特色です。



※演目・出演者は、都合により変更する事があります。
※お席は自由席(先着順)となります。また、春日大社会場においては座席数に限りがあり、一部のお客様には立ち見をお願いする場合がございます。
※協賛券は、特別な場合を除き、返金等にはお応えできません。

【薪御能講座】「御能を楽しむ、奈良で楽しむ」開催!

能楽師の方から薪御能当日の演目の解説やお能の魅力などをお聞きます。

【日程】2026年5月15日(金)、16日(土)
【時間】14:00~15:30頃
【講師】辰巳満次郎 師(15日)、山中雅志 師(16日)
【場所】興福寺会館(三重塔横)
【参加費】2,000円

予約・問合せ

NARAタイム (<https://narashikanko.or.jp/naratime/ja>)
0742-30-0230 (平日午前9時~午後5時まで)
※予約は3月下旬頃より開始します。

スマホde解説

「一般財団法人 衆我財団」様の支援事業として、お客様ご自身のスマートフォンとイヤホンで演目の解説をお聴きいただけます。ご希望の方はスマートフォンとイヤホンをご持参のうえ、ご来場ください。
※スマートフォンの機種や設定によっては、ご利用いただけない場合がございます。※利用料金は無料です。